

第1回、第2回海上の森保全活用計画策定検討委員会 委員の意見と対応方針

分野	委員意見	意見詳細	対応方針
自然環境の保全	1 外来種が増えていることへの対応	・昆虫等の外来種の増加を懸念している。	・R7年度に外来種の状況調査を予定しており、調査結果に基づき種ごとに対応を検討するが、海上の森だけでは解決できないケースも多いと考えられる。 ・新たに対策が必要な種の例示及び外来種の駆除方針を次期計画に記載する。
	2 ギフチョウへの対策は検討するのか	・カンアオイは少なくなっている。 ・ギフチョウはかなりの面積を明るくしないと回復しない。 ・小面積皆伐や山際の皆伐との話とセットになる。	・生態系保護区域以外では、ギフチョウの生息環境の保全に特化した環境整備の予定はないが、「恵みの森」「循環の森」等で実施する小面積皆伐等森林整備の効果として、近隣地域からの移入・定着が期待できる。 ・生態系保護区域においては、現在、ギフチョウの再生産は海上の森では行われていない。ギフチョウの再生産のためには、小面積皆伐等で照度の高い林とし、カンアオイ類が生育した上で、近隣地域からの移入が起きる必要がある。小面積皆伐の環境への影響やギフチョウの移入可能性を慎重に検討していく必要がある。
	3 植物の盗掘等がみられる	・カンアオイも採られている。観察会などで腕章をつけてアピールできる。 ・植物は普通の人が採っていると思う。信頼のおける人に腕章を貸し出すと良い。 ・「採ってもいいのかな」と思って採る人への注意喚起を。 ・注意喚起はキャンペーンをやっても良い。 ・看板は瀬戸警察署の名前も借りる。	・密猟、盗掘等については現計画に記載がないため、次期計画に新たな課題として記載するとともに、取組方向を記載する。
森林整備	1 間伐の経費に材の売り払い収入を充当できる仕組みやJ-クレジットなどを活用できないか。	・間伐を県有林がやれないのか。 ・県有林と海上で取り決めれば出来るのではないか。 ・予算を取って管理できるなら問題ないが。補助金を活用したらどうか。	・H30までは海上の森センターで森林経営計画を立て、造林補助金を活用し間伐を実施してきた実績があり、今後の小面積皆伐・再造林を見据え、新たな森林経営計画の策定や、補助金の活用を次期計画の中で検討する。
		・里山をつくるためのクラウドファンディングやふるさと納税はできないのか。	・森林吸収系J-クレジット制度の活用については、豊田市内2か所の県有林において、本年度県内で初めて、森林クレジットを創出して販売した。森林クレジットの活用においては、クレジット創出に係る登録、審査、モニタリング調査報告に係る経費等一定のコストを要することから、コストに見合うクレジット収入が見込めるかどうかが重要。県有林J-クレジットを踏まえて、海上の森におけるJ-クレジット制度の活用可否を次期計画の中で検討する。 ・クラウドファンディングやふるさと納税のためには「海上の森保全活用基金」等を設立する必要があり、次期計画の中で検討する。
	2 間伐は計画的に実施できたが、活用ができていない。	・良い山、悪い山のモデルをつくる。	・費用を勘案して搬出可能な範囲での利用間伐に努め、10年間で約80m ³ の木材生産を行った。今後路網整備も視野に入れ、さらなる森林資源の有効利用を図る。 ・施業地に一般向けの解説板等を設置することで、未施業の隣接地との比較等ができるようにし、森林整備の重要性をPRする場にする。
	3 多様な広葉樹林とするために、小面積皆伐を検討。	・森林整備の施業の見せ方があって良い。看板があるサンプル林。 ・里山を守るためにも問題がある所は皆伐・間伐を進めるべき。 ・農地を含め、全体の景観をどのようにデザインするのか。皆で話し合ってビジョンを作っては。次期計画の中で作成しても良い。	・多様な広葉樹林を創出するため、平成28年に「ふれあいの里」の広葉樹林においてシデコブシを除いた小面積皆伐を実施した。今後は小面積皆伐の有効性について検証し、「恵みの森」、「循環の森」でも小面積皆伐を実施する。 ・施業地に一般向けの解説板等を設置することで、未施業の隣接地との比較等ができるようにし、森林整備の重要性をPRする場にする。
	4 「恵みの森」の広葉樹整備に企業連携が森林組合などを含めてできないか。		・「恵みの森」での企業連携による森林整備を推進する。ただし、広葉樹伐採は高度な技術を要することから、林業経営体等を含む連携体制とする。

第1回、第2回海上の森保全活用計画策定検討委員会 委員の意見と対応方針

分野	委員意見	意見詳細	対応方針
農地の管理	1 イノシシ対策は電気柵・山際と畑のバッファゾーン・狩猟がセット。海上の森で実施してモデル地区にしてはどうか。	・山すその刈払を実施する。 ・電柵の設置、山ぎわの刈払い、狩猟を実施する。	・農地のある「ふれあいの里」地域では、県有地と民有地が混在していることから、所有者との調整しながら、ボランティアや海上の森アカデミーの修了生を活用するなど、多様な主体との協働で山すその刈払、電柵の設置等を推進する。
	2 農地周辺の高木化した樹木を伐採して農地の光環境の改善が必要。	・里山の景観も重要。理想とする里山・農地を図化して皆が共有する。	・急斜面に生育する人工林のため、伐採・搬出にかかる経費のバランスや費用対効果の面から課題があるが、路網の整備等搬出方法を検討の上推進する。 ・理想とする里山・農地のイラスト化について実現に向けて検討する。
	3 ため池の適切な管理が必要。ウシガエルの除去や泥上げなど。	・ため池の水を利用する田は日陰化しているため耕作していない。 ・イシガメの卵はウシガエルに食べられたかも。 ・外来種駆除の面ではやった方が良くかも。	・海上の森の会、ボランティア等を活用してため池の保全を実施する。
人材育成	海上の森アカデミーはワーキンググループを作って見直しを検討。	・里山暮らし講座は「里山アート講座」と「里山暮らし講座」にしてはどうか。田、山、堆肥づくりなど。「里山講座の里山」で活動しては。 ・チェーンソーで伐採だけでなく、山との付き合い方をもう少し自由にできるようOGに働きかけている。 ・時代の要請とともに変わることも大事かと思う。1人でも海上に関心を持たれることが目標。 ・修了生へのアンケートお願いしたい。「修了生のその後との生活、人生にどう影響があったか」	・海上の森アカデミーに係るワーキンググループをつくり、10年間の成果や課題を整理し、里山の再生等海上の森に携わる人を養成する。
地域	1 住民が住んでいなくても里文化や自然が守られるモデル地区になることを期待。	・山口地区の季節の文化や伝承を受け継いでもらう人を養成する必要がある。 ・「里山暮らし講座」と連携してもお祭りをしても良い。 ・サテライトに山の管理や里の生活など相談できる場所をつくっては。	・海上の森アカデミーに係るワーキンググループの中で検討したい。
	2 海上を維持するためにも地元住民の参加をどう増やすかが課題。	・コロナ禍以降規模を縮小して一般の受け入れをしていない。もっと門戸を広げたい。 ・消滅集落の海上の里に関係人口を増やす住民登録したらどうか。	・次期計画の期間中に、地元参加が少ない理由の分析と対策（広報活動）について研究する。
施設	施設が老朽化している。トイレは利用者負担を検討してはどうか。	・管理を利用者負担にすることもできないのか。 ・修繕が続いてほとんど使えない。割り切って新設の手を上げないと。 ・再考をお願いしたい。	・トイレ等施設の老朽化対応については、利用者に不便が生じないよう維持管理を行うとともに、今後も利用者負担なしで運営する。また、改築等の予算要求をしていく。
運営	1 森林管理や普及啓発ができる人数・人材の職員配置が必要。		・適切に施設を管理・運営できる人員配置に努める。
	2 来場者のニーズを把握するよう次期計画で調査を検討する。		・次期計画期間中に、FormsやQRコードを活用し、来訪者のニーズ等を把握、分析する。
その他	瀬戸市道の補修を瀬戸市に要望する。		・市道の補修については瀬戸市に要望しているものの最低限の対応となっている。必要な修繕については今後も要望していく。